

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.2
平成26年4月22日

温かな雰囲気のある学校から一励まし合い、高め合う学校へ！

4月のこの時期は、入学した1年生児童を気遣って、ゆっくり登校する通学団がいくつか見られます。また、ときには手提げカバンをもってあげたり、立ち止まってしまう児童に付き添ったりと、6年生や5年生の児童が、温かな言動で手助けをしてくれています。

また、学校内でも6年生の児童が給食の後片付けを手伝ったり、清掃の仕方を丁寧に教えたり、手伝ったりしてくれています。

こうした6年生を中心とした上級生の低学年の児童への優しい援助や思いやりの言動は、最上級生・リーダーとしての自覚と責任感にあふれた態度であり、桜小の児童に受け継がれている良き伝統とも言えます。

分離して、新生桜小学校になってからは、学年の枠を超えてドッチボールや大縄跳びを楽しむ光景も見られるようになってきました。

このように桜小学校は、温かな雰囲気になった学校ですが、その温かさに甘んじることなく、様々な活動において互いに励まし合い、高め合う真剣な態度が必要です。6年生を中心とする上級生の真剣な態度が、学校全体を大きく動かし、さらに良き伝統を創り上げることができるのです。

全校朝礼の話より（4／14）

給食が始まって、1週間ほどたちますが、どの学級も「給食がおいしい」という声が聞こえて、校長先生は、とてもうれしく思います。栄養教諭の若杉先生は、残滓や牛乳の残本数を調べてみえますが、残滓や残本数が少ないと、その日はとても喜んでみえます。

さて、今日は食事のときのあいさつのお話です。私たちが食事のときに使っているあいさつ「いただきます」と「ごちそうさま」は、感謝の言葉です。

「いただきます」は、「私の命のために動植物の命をいただきます」の意味です。私たちは、生きるために食事をします。数々の動物や植物を食べています。実は、食事をするという事は、動物や植物の命をもらっていることと同じです。命をいただいた動物や植物へ感謝の気持ちを表した言葉が「いただきます」です。

「ごちそうさま」は、「馳走（ちそう）」に「ご」と「さま」という丁寧な言葉をつけたものです。この「ちそう」は、走るという意味です。昔はお客様を迎えるのに走り回って獲物をとって来ました。獲物をとるのは、命がけでした。その命がけの行動に「ありがとう」と心からの感謝の気持ちを表したものが「ごちそうさま」です。

動物や植物への感謝と、大変な思いをして食べ物を用意してくれたことへの感謝の気持ちを表した「食事のあいさつ」は素晴らしい言葉ですね。

これからも「いただきます」「ごちそうさま」と元気な声であいさつしましょう。

それと一緒に、食べ物を大切にすることを忘れない桜小のみなさんでいてほしいと思います。

